広告　企画・制作　LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

ゆったり、せとうち時間を感じる 庵治石硝子を使った水ガラス時計

時を計らず、時を忘れる時計

杉山　利恵
香川／ガラス作家

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」（主催：LEXUS）は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏（建築家／東京大学教授）、生駒芳子氏（ファッション・ジャーナリスト／アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意匠と匠研究所）らをサポートメンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主催のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。

1月17日、プレゼンテーションにて

プレゼンテーションの様子

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。

また、商談会の終盤ではビームスジャパンとのコラボレーション企画「LIFE with NEW TAKUMI～新しい匠、新しい暮らし～」が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。

香川県選出の匠、ガラス作家の杉山利恵さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

スーパーバイザー
小山　薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。

地元の空気感を表現する

杉山さんは、庵治石の粉を原料に配合した「庵治石ガラス」を使った作品を制作するガラス作家。庵治石ガラスの瀬戸内海を思わせる優しく澄んだ青い色は「瀬戸内ブルー」と呼ばれ、寒色なのに温かな雰囲気を持ち、作品のゆるやかな曲線と合わせて、県内外で人気を集めている。

大学を卒業後、会社勤めをしながら丸亀市のガラス講座で学んだ。最初は趣味の範囲で制作を続けていたが、30代になってからプロを目指すことを決断。東京と富山のガラス研究所に計3年間通った。

「東京と富山で過ごした3年間、生まれ育った香川を外から見る機会を初めて得た。そこで感じたのは、香川は居心地が良くて、帰ると自分を包み込んでくれる場所だということ。自分の中に地元の自然や文化がたくさん染みこんでいたことだった」（杉山さん）。

空気を吹き込む杉山さん

研究所で修業を積んだ後、香川に戻り、2013年に工房を設立した。プロとして制作活動をするにあたり、杉山さんは自分の原点を模索、生まれ育った地元と自分が切り離せないこと気付く。「自分の表現＝地元の空気感を表現すること」。地元の優しい空気感を県外・海外に伝えたいという強い想いが、庵治石ガラスが生まれるきっかけとなった。

杉山さんの作業道具

エリア・コンサルティングの様子

独自の配合で理想の色に

素材に地元の何かが溶け込み、香川の「空気感がにじみ出る」ガラスを作る―。杉山さんは失敗を何度も重ねるなど試行錯誤の末、地元が誇る世界最高峰の御影石とも呼ばれる「庵治石」を溶かし込むことに成功。理想の色になる独自の配合を編み出し、瀬戸内ブルーの庵治石ガラスが誕生した。

普段は、皿やグラス、花器、置物など生活を彩るガラス作品を精力的に発表している杉山さん。今回のプロジェクトについて、「作品が完成しない夢を何度も見るなど、厳しい時間を過ごしたときもあった。しかし、全国の〝匠〟たちが頑張っているのを想像したら、妥協できないと奮い立った。〝匠〟たちの存在が制作の支えになったし、あきらめないことの大切さを学んだ」と振り返る。

今回出会った〝匠〟たちと、2020年に向けて「茶室」を作るプランも持ち上がっているそう。「プロジェクトを通じた〝匠〟たちとの出会いとつながりは、今後の大きな財産になると思う」（杉山さん）。

庵治石ガラスを制作する杉山さん

杉山さんのプロダクトは、庵治石ガラスで制作した砂時計ならぬ「水ガラス時計」。砂の代わりにガラスの細かい粒子を使用し、粘りのある水で満たしたボトルの中を、ガラスの粒子だけがゆっくり華麗に舞いながら落ちてゆく。その様子は瀬戸内の優しい潮風、讃岐の平野に吹く穏やかな風、降り注ぐ光の舞いのようにも見え、見る人の想像力をかきたてる。

コンセプトは「ゆったりとした〝せとうち時間〟を感じる。時を計るものではなく、時を忘れるための時計」。杉山さんは、「このボトルを眺めることで、地元の方は、地元愛を深めたり懐かしんだり、県外・海外の方は、瀬戸内の情景に想いをはせる、そんな心を豊かにしてくれる作品にしたいという想いで制作した」と話す。

作品の穏やかな見た目とは対照的に、制作は悪戦苦闘の毎日。①ボトルの中に気泡を入れず水を閉じ込める②ガラスの粒子がゆっくり舞い降りるよう、水の粘度を上げるといった問題に直面した。トライ＆エラーを繰り返しながら、一つずつ課題をクリア。仲間の〝匠〟からの励ましも受けながら、完成にこぎつけた。

強いメッセージ性を持つ

「ボトルの中に1つだけ、蒼以外の色ガラスを入れてみてはどうか？」。昨年11月のプレ・プレゼンテーションのとき、こんな意見が小山氏から出た。地元が好きで、庵治石とガラスを一緒に溶かした庵治石ガラスを生み出した杉山さん。「石から出る蒼色の濃さは、瀬戸内海を思い出すようにという想いで調合している。プロダクトの中に蒼以外の色のものが入るという発想は、正直まったくなかった」と当時を振り返る。

その後、オーダーメイド感覚で、蒼い硝子の粒の中に一粒だけ好みの色ガラス、もしくは誕生石を入れるなど「特別版」を制作。特別な一粒が落ちるのを、自分に置き換えたり、人それぞれの想像で楽しめる「アートピース」な作品も出来上がった。

プロダクト名は「蒼時―Aji―」。ロゴやポスター、PV、パッケージにもこだわり、プロダクト自体をブランディングした。「瀬戸内の空気感や幸福感を直接伝える、強いメッセージ性を持たせた作品が完成した。何度ひっくり返しても同じ表情はなく、眺めていて飽きない。この瀬戸内ブルーのガラスから、讃岐の温かさや穏やかさがいろんな人に伝われば嬉しい」（杉山さん）。

完成プロダクト「蒼時―Aji―」

杉山利恵
香川／ガラス作家

四国学院大卒業後、インテリア会社や画廊、出版社に勤務。仕事の傍ら吹きガラス講座に通う。東京ガラス工芸研究所基礎科修了、富山ガラス造形研究所造形科卒。2013年に工房「Rie Glass Garden」を設立した。2012年 香川県産品コンクール審査委員特別賞受賞。

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT